

令和 5 年（2023 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：茨城県常総市

協定締結日：2020 年（令和 2 年）12 月 23 日

活動状況：継続中

連携先窓口：茨城県 常総市 アグリサイエンスバレー整備課 塚本 義史 様

活動資金：自治体予算

担当教員（所属）：野口敬夫（食料環境経済学科）

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：大浦裕二（食料環境経済学科）

国際食料情報学部 食料環境経済学科 教員

活動目的：

1. 「常総市アグリサイエンスバレー」事業に関わる事項
2. 市の特産物のブランディング等の農業及び関連産業の活性化に向けた事項
3. 人材育成に関わる事項
4. その他両者の協議により必要と認める事項

活動内容・成果：

1. 地域農産物の 6 次産業化やブランド化に係る調査研究を受託し、現地視察・調査を実施した。

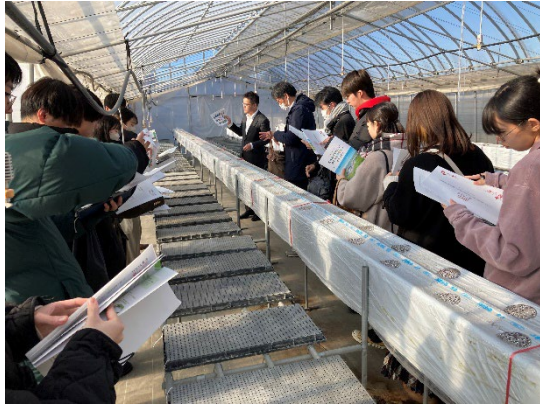
●実施日：令和 5 年 12 月 26 日（火）

●参加者：東京農業大学 国際食料情報学部・食料環境経済学科
合計 19 名（教員 4 名、学生 15 名）

●調査・視察先

- ・ TODA 農房合同会社
- ・ 道の駅常総
- ・ 本田技術研究所
- ・ グランベリー大地
- ・ 常総市役所

●調査・視察風景



TODA農房の視察



グランベリー大地の視察



道の駅常総に関する意見交換会



道の駅常総の視察



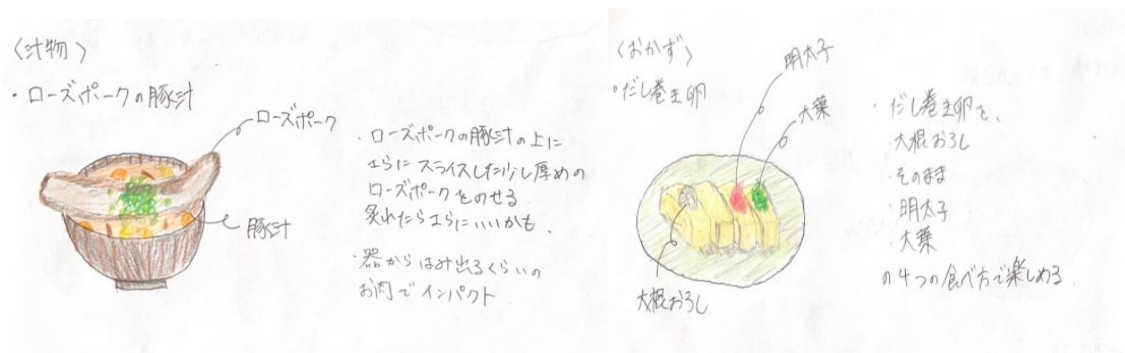
常総市×HONDAのAIまちづくりの説明



常総市役所での意見交換会

2. 道の駅常総「いなほ食堂」における学生のメニュー開発

食料環境経済学科の学生団体「もぐもぐプロジェクト」が道の駅常総を運営する(株)TTCと連携し、道の駅常総のレストラン「いなほ食堂」で地域の特産物を利用した新たなメニュー開発に取り組んだ。もぐもぐプロジェクトから参加している学生は、1~3年生10名である。学生と(株)TTCが協議して売上・利益目標、粗利、原価、販促予算、スケジュールなどを決定した後、学生がコンセプトとメニューを考案した。



学生がデザインしたメニューのビジュアルイメージ

2023年11月23日に道の駅常総にて、試食会を実施した。試食してその場で出した意見をすぐに反映して再度料理・盛り付けを行いながら、自由な意見交換を行った。料理のコンセプト、味、ビジュアル、価格帯などに加えて、継続的にメニューを提供するにあたって考慮すべき点なども検討した。試食会後にメニューごとの改善点を洗い出した上で、最終的なメニューの絞り込みを行った。その結果、つくば鶏の炊き込みご飯、ローズポークの豚汁、だし巻き卵の3品がメニューとして決定され、これらが「茨城モリモリ定食」として販売されることとなった。





道の駅常総における試食会の風景 (2023. 11. 23)



東京農業大学

食料環境経済学科 学生団体『もぐもぐProject』

学生さんプロデュース!

学生さん考案の商品を形に!

茨城県産卵の
出汁巻き
～茨城県産シラスと明太子～

【茨城県の銘柄豚】
ローズボークの
豚汁

つくば鶏の
炊き込みご飯
～つくば産の照り焼き付き～

ローズボークの
豚汁

ボリュームも茨城県の食材もモリモリ!

茨城モリモリ定食 1,680円(税込)

小鉢・漬物付き

数量限定

※写真はイメージです ※写真はアレルギー20品目中の「鶏・卵・小麦・卵・乳成分・大豆・豚肉・牛肉・豚肉・大豆・卵・小麦」を使用した商品と同一調理場で調理しています

茨城モリモリ定食 (2024年2月7日リリース)

3. 東京農業大学「産学官・地域連携 HUB」シンポジウムでの報告

東京農業大学「産学官・地域連携 HUB」シンポジウムは、東京農業大学がハブとなって連携先組織をつなぎ、イノベーションを創出していく産学官・地域連携 HUB 構想の実現を目指したシンポジウムとなる。シンポジウムは 3 部構成され「第 2 部・産学官連携／地域連携成果報告」として、常総市と東京農業大学の連携について報告した。

2023「産学官・地域連携 HUB」シンポジウム

○日 時：2023 年 12 月 1 日（金）

○開催方法：オンライン（Zoom）開催

○第 1 部 スマート社会の構築に向けた農林水作業の役割

第 2 部 学内プロジェクト等研究成果報告：豊かな未来に向けた実学研究

産学官連携/地域連携成果報告：「ひと」・「もの」・「ちいき」をつなぐ

ファシリテーター：産学官・地域連携センター長 平山 博樹

産学官・地域連携副センター長 高畑 健

「茨城県常総市のアグリサイエンスバレーと東京農業大学との連携」

食料環境経済学科 准教授 野口 敬夫

茨城県常総市役所 アグリサイエンスバレー整備課 塚本義史

第 3 部 第 1 部・第 2 部についてのまとめと全体を通しての質疑応答

課題・改善点：

研究面での連携として、道の駅の出荷者・非出荷者に対するアンケート分析を実施する。主に①出荷の実態と意向、②出荷の意思決定に関する要因、③道の駅に対する評価、などに生産者ニーズ・評価を定量的に把握することを目的とする。2023 年度は研究計画とアンケート項目の検討・作成を行ったが、2024 年度にアンケート調査を実施し、分析を行う予定である。